

初詣は、地球のための祈りを



創刊号から、3号までの巻頭エッセイの概要を並べてみます。

ぜひ、全文を、バックナンバーでお読みください。

<http://backno.mag2.com/reader/Back?id=0000143403>

創刊号 ■ 時間は、オーガニック・オーダー

初めて聴く言葉だと思えます。

オーガニック野菜、オーガニック・レストラン、
という形でのオーガニックという言葉には、
多くの人が馴染んでいるでしょう。
それは、地上的な、
しかも限定された意味でのオーガニックです。

「時間は、オーガニック・オーダー」

地球は地軸を傾けて、太陽の周りをまわっているために、

たとえば、日本では、
今、広葉樹が色づき、紅葉が始まる。
ススキが風になびき、秋色が野山を染める。
熊は、冬眠前にえさをあさる。

富士山が徐々に白く染まり、
もう少しすると、冬。熊は冬眠し、
多くの草木は枯れ、霜柱が立ち、雪が降る。氷が張る。

春になると、芽が吹き始め、新緑がまぶしく、桜が咲き、春風が吹く。

夏になると、せみが鳴き始め、太陽が照りつけ、夏野菜が生長する。

地球上の生物が、

土のなかの微生物から、虫、草木、魚、動物まで、
すべて、有機的につながって、関係しながら変化してゆくのを、
地球の生物圏の様相が
有機的秩序の中で、動いているのを観じることができると思います。

そして、それが、太陽の周りを地球が一周する周期。
1年という周期、時間のなかで起こっている。

そういう宇宙と時間と意識をつなぐキーワードが
「時間は、オーガニック・オーダー」です。

同じように、地球の自転する様子を感じてみたいと思います。
地球の自転によって、昼と夜が生まれる。
日の出のときに、光が、空が、山が、海が、美しく輝き、
鳥がさえずりはじめ、体の細胞も息づき始める。

地球の自転の周期、一日という時間の中で
太陽の影響の中で、地上のすべての生命が有機的にすべてが
つながっている。

生命のリズムと、
それが織り成す地球の生物圏と、
天体の動き、宇宙のリズムと
意識を結びつけることができるのが、

「時間は、オーガニック・オーダー」というキーワードです。

第2号 ■ 日本語は、「私」があいまいなのか？

日本語は、一人称の「私」という主語があいまいなのではなく、
「私」でない意識になれる。それが、日本人の本質なのだ。

日本人は、そして、日本文化は、「私」が虫に、川に、なりきるから、
虫の音を、川のせせらぎを、言葉として、聞く脳をもつ民族になった。

インラケチ。「私はもう一人のあなたです」というマヤの挨拶。

「私」でない意識になれるくらい、いや、虫や草木の意識になることによって、
その心がわかる、虫や木のことを感じる日本人の精神。

「私」と「私」以外の虫、草木、山、海、月、太陽、神を、区別できない精神
状態になれる。

なんにでもなれる。宇宙意識というのは、そんなことなのではないのだろうか？

自分のためでなく、仕事は、人のため、社会のためにやるものである。

「和」、の本当の意味は、こんなところに隠されているのかもしれない。

第3号■初詣 と 祈り

多くの人が初詣に、神社やお寺に行くと思う。

ところが、決められたように、神社で「家内安全」「商売繁盛」を願う。
それは、自分のためだけの、願い。

そんな形の「願い事」から、
人のためであり、地球のためであり、宇宙の摂理に協力する、
本来の「祈り」を、多くの日本人が、神社で行うように促すことが、
今、重要なのだと思う。



「時間は、オーガニック・オーダー」というのは、今年、一番伝えたい
メッセージとして、コズミック・ダイアリー・セミナーで、中心に据えた
内容です。セミナーの場では、実際に、想像力で地球と太陽の関係を

感じていただき、このキーワードによって銀河の視点で有機的秩序を感じるような示唆を行い、多くの方に今までのパラダイムから、新しい時間に旅立っていただくという、ひとつのパラダイムシフトを体験していただけたと思います。

「時間は、オーガニック・オーダー」はセミナー初日で、新しい時間船「コズミック・ダイアリー」に乗っていただくためのキーワードです。

短い文章で、どこまで伝わったかはわかりませんが、そのコンセプトは書かせていただきました。

新年を前に、その内容を再読していただければありがたいです。

また、日本語は、一人称の「私」という主語があいまいなのではなく、「私」でない意識になれる。それが、日本人の本質なのだ。という観点は単純なようで、非常に深いパラダイムシフトを生み出すことができます。

エッセイ全文を再読いただければ幸いです。ちなみに、正月から「私」「僕」「俺」といった一人称をまったく使わない生活を試みてください。

どういう時に「私」と言ってしまうか、ということを手づかみ体験してみてください。他者と区別したいとき、自己主張をしたいときに、どうしても「私」と言ってしまうという体験の観察から、考察を広げていただければと思います。

日本の和の精神というのは、ことばの平和や、仲良くするといったレベルとどこが違うのかが、自分の言語活動と意識から、直観するように導くことができると思います。

他者の立場に立つ、虫や野菜の視野を持つ、月や太陽にもなってしまう。「私」でない宇宙意識から、ものごとをいつも見ている状態に導くことが、日本の「和」であり、つながっている輪としての「わ」であることを考察できると思います。

以上の「時間は、オーガニック・オーダー」
日本語は、一人称の「私」という主語があいまいなのではなく、
「私」でない意識になれる。それが、日本人の本質なのだ。

ということに賛同いただけただけの方、そこに、気づきや、新しい発見があった方
にとって、正月に初詣に行った時に、「家内安全」「商売繁盛」という形で
自分を中心とした「家内安全」「商売繁盛」を願う形の自分がいたとしたら、
自分の姿が滑稽に見え始めることを体験すると思います。

そんな風に、願い事に導く神社の姿勢にも、大きな疑問を感じ始めるかも
しれません。

もし、不調和がどこかに起こっているのを知っていれば、そこに調和が取り
戻され
ることを祈るのが、本来の願いであり、祈りです。

自分だけの幸せを願うという文脈での「家内安全」「商売繁盛」という願い
そのものが、全体の不調和をもたらすものに近いことも、感じ始めるでしょう。



2005年の初詣は、地球のための祈りを



正月に、一つの神社に、何十万人もの人々が集まり、願いごとをする。
聖なる空間に、初詣する人々のもつ潜在的な力というものを感じるなら、

この「願いごと」が自分のための願いごとから、
もし、地球のための、宇宙のための「祈り」に
そのクオリティーが変わった時、
日本人の心に、大きな変化を生み出すことを想像することができないでしょう
か？

また、その「祈り」がもつエネルギーを、自然の摂理を取り戻す方向に、この2005年から生かすことができれば、というのが今の「思い」です。

具体的な提案は、不用意に、「家内安全」「商売繁盛」を願うのではなく、ひとりひとりが、初詣という時とそれにふさわしい場所を選んで、それにふさわしい、
生命にふさわしい、オーガニック・オーダーを感じている者にふさわしい、
「私」でない意識にふさわしい、
地球のための「祈り」を行う。
自然のための「祈り」を行う。
人のための「祈り」を行う。

地球上の様々な場所で、同じ瞬間に、宇宙と生体のリズムに合った「祈り」が行われたなら、その「祈り」は同調して、宇宙にまで影響を及ぼすでしょう。

2005年の初詣は、そういう「祈り」を一人でも多くの日本人が行い、神社にも、平和や、地球環境、人の救済や、自然への愛を願う、四字熟語をご提案していただくような方向に進めばと思います。



2005年、コミュニケーションによって、日本人の心の中のONとOFFが、変わる可能性が高い年



2005年、どういう形であろうと、環境をテーマにした万博が行われます。そして、間違いなく数百の環境をテーマにした番組が作られ、数千の環境をテーマにした記事が生まれる。

その数百の環境をテーマにした番組の、数千の記事の内容を左右するのが、

実は、受けて側の環境意識だということを知っておいてほしい。

受け手が、今の環境意識だと、今のレベルの番組しか作れない。
月も見ない、日の出も見ない、草木も、感じていない人に、伝えるレベルの
情報の発信になってしまう。

もし、受け手が、月を感じ、草木を感じ、オーガニック・オーダーを感じ
始めていれば、そのレベル以上の環境意識の番組を作ることができます。
コミュニケーションとは、常に、多数の受け手に向けて発信されるもの。

そういう前提を踏まえた上で、2005年は、日本人の環境意識が変わる
ためのコミュニケーションが生まれる稀有のチャンスであることは、
間違いないと思います。

2005年、まわりりのもの、太陽、月、海、大地、雨、空気、森、木々、
草木、動物、虫、微生物、まわりの人、日本人、地球の反対側に住む人・・・
そういうまわりりのもの、つまり「環境」、を感じる、意識する
本来の環境意識が高まることを願います。

2005年に、コミュニケーションによって、
日本人の心の中のベクトルが、
経済から環境へ
スイッチが切り替わるチャンスだと思います。

そして、それは、
新年の祈りから、すべてが始まるように感じます。